凡　事　徹　底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和２年度
第2号（5月号）

広がる　つながる　応援の輪

校長　小山　晃弘

今月７日からの学校再開を待ち望んでいたところですが、県知事の発表を受け、蕨市でも緊急対策が発表され、蕨市立小・中学校の臨時休校期間の延長についても、その内容が市のホームページにアップされました。休校期間が延長され、収束が見えない中、新型コロナウイルス感染症の影響が深刻な状況にあることを改めて感じました。

埼玉県内でも早い市町では、「小中学校の夏休み短縮、隔週土曜授業も」といった具体的な内容を提示し、その他にも、「家庭学習用の教材を郵送」といった内容が、新聞でも報道されています。

蕨市のおいても、各学校から学習プリントを配付したり、ｅライブラリの活用を推進したりと取り組んできたところですが、４月２８日の「市長メッセージ」にもあるとおり、市内全児童生徒にワークブックが配付されました。本日、国語と数学のワークを１冊ずつ配付させていただきましたので、ご活用いただければと思います。また、各教科の副教材も計画表とともに配付させていただきましたので、並行して、ご活用いただければと思います。

各地・各分野の人々の応援の輪が広がっています

新型コロナウィルス感染拡大防止について世界的に報道されている中、医療や保育等に携わる方々や、社会の機能を維持するために継続して就業せざるを得ない方々、そして、今学校に行って学習や運動することを待ち望んでいる子供たちに向けて、たくさんの応援の輪が広がっています。

「医療従事者の方々はもちろんのこと、行政の方々、物流を担う方々、　また生活必需品を提供してくれる方々などそれぞれの立場で懸命に新型コロナウィルスと戦ってくれている全ての人々へアスリートから Respect の気持ちを込めて、感謝と応援のメッセージが届いています。（日本サッカー協会ホームページより）」既にご覧になった方もいらっしゃると思いますが、たくさんの選手たちからの応援メッセージがアップされています。他にも、子供たちに向けた家庭でできる運動について、多くの有名アスリートたちが、動画を提供しています。

また、「有名シェフたちが医療従事者を応援！日本でも広がる「お弁当」支援の輪」といったネット記事や、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れて治療にあたっている医療機関を中心に、医療用マスクや防護服などの医療資材を無償提供するといった報道も目にしました。

支援の輪は大人だけではありません。山梨県の中学生がマスク 600 枚以上を手作りし、山梨県に寄付したそうです。2 月の終わりから毎日 30 枚以上、臨時休校となってからは自宅での勉強と両立させながら、マスクを手作りしたそうです。

この中学生は「薬局で高齢者がマスクを買えずに困っていたので、何かできないかと思いました。マスクが必要な方々に届けばいいなと思います。」と話していますが、間違いなく、手作りマスクは多くの人が喜んでくれているのではないでしょうか。

どんな困難の中でも、相手のことを思いやり、支えてくれる人の存在は、とても大きなものです。

今できることは何なのか。感染拡大防止に向けて、日本の国が一つになって行動していかなければなりません。「ステイホーム」不要不急の外出は避け、収束に向けて、今は我慢のときだと思います。

※6月1日以降の予定につきましては、分かり次第メール配信やホームページ等で、お知らせいたします。

《学校教育目標》
自ら学び、深く考える生徒　（知）
心豊かで、思いやりのある生徒　（徳）
たくましく、健やかな生徒　（体）

蕨市立第二中学校
電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp